
双子の誤り

花坂るい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

双子の誤り

【Nコード】

N9580I

【作者名】

花坂るい

【あらすじ】

昔から、身長も髪の毛も好き嫌いも、体重も顔もすべて同じだった双子の文人と健。その双子が：まさかあんな展開に！？ドキドキハラハラのお話です。

双子の誤り

俺、健とこっちにいる文人ふみんは双子。

俺は、2年B組で文人はD組。

髪の毛とか身長とか体重とか全て同じで…

なんと、好きな女子のタイプも同じだった。
よく間違えられる。

~~~~~

ある日、俺はある女の子とバイト先で出会った。  
その子は完璧な女の子と言える人だった。

名前はリナ。

俺の一つ上だった。

~~~~~

健はリナと次の土曜日、近くの高級な喫茶店に行くことになった。

その話しが成立したのはバイトが終わった後だ。

リナ…「じゃ…また今度ね」

健…「うん、じゃ…」

健はウキウキだった。

家に帰ると文人が待っていた。

文人…「おい！！遅かったな…バイト長引いたのか？」

健…「ちよつと俺の部屋きて！」

文人の手を引いて健の部屋に入れた。

文人…「どうしたんだよ…そんな顔真っ赤にして…？」

そして、次の土曜日、リナと会うことを話した。

文人…「おお！！やったなっ！！スゲーーいいなあ…。さっそく彼女かよっプ」

健…「いや、彼女じゃねーよっ。バイトの事で合うだけ。」

〳〳次の土曜日〳〳

「ふわあ…あつ、そうだ今日リナさんが喫茶店に来るんだ！」

「このシャツ着ていこうかな・・・ちよつと合わないかな？まっこれでいっか!!」

朝の10時。ひっそりと玄関のドアが開く音で目がさめた。

健..「今・・・何時だ？あつ、そうだ!!今日：リナと喫茶店で会うんだ♪」

そして健は自分のダンスを開けた。

・
・
・
・

健..「あれ？あれ？俺の・・・・・・」

健はダンスをあさった。

健..「俺の・・・、新品のTシャツがない!!」

~~~~~

リナ..『健さん…まだかしら…』

リナは喫茶店の奥の方の席に座った。

すると、緑のチェックのTシャツを着た1人の男性が走ってきた。

「ハア・・・ハア・・・遅れてごめんなさい!! ちよつと・・・服  
選別に迷って…。」

リナ..「アハハっ、あなたらしいわね。まあ座ってください♪好きな  
ものの頼んでいいですよ。」

健は、白い色のTシャツをはおった。

ボタンがすこし 込んでいる。

健は思いっきり大またで走った。

ーリナさん待ってるだろうなー

~~~~~

リナ…「そういえば…最近、CD買ったんですってね!どんなCD買ったの?」

「えっ…えーっとお……………」
緑のTシャツのカゲがすこしゆれる。

リナは興味深い顔をしている。

「普通の…ポップスっぽい曲……………かなあっ」
冷や汗が出た。

リナ…「へーえっ…そんな曲聞かれますか♪今度聞かせてくださいね」

~~~~~

健は喫茶店の前へ着いた。

ドアを開けがてら、リナを探した。

そして、髪の毛の長いリナを見つけた。

健..「あつつつ!! リーリーナーさ.....。.....???

」  
健は一瞬驚いた。

なんとリナの目の前には健の双子の“文人”がいた。





## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9580i/>

---

双子の誤り

2010年10月9日06時27分発行